

合併の経緯 — 伊勢畑村 —

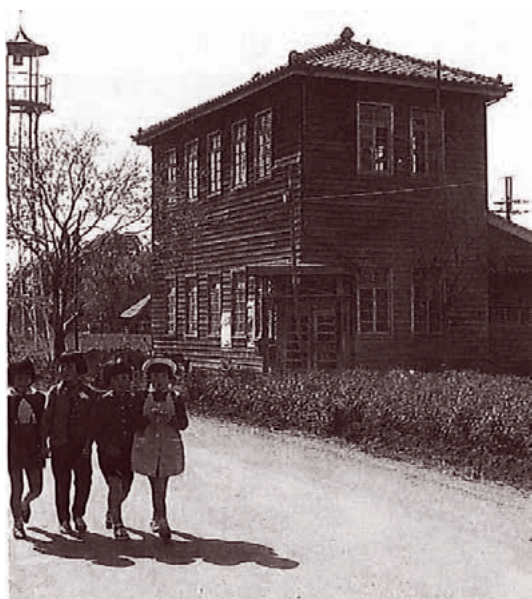
◇明治の合併と伊勢畑村

伊勢畑地区は常陸大宮市の南西に位置し、那珂川の右岸となる地域です。那珂川の支流である相川と松山川が流れ、それに沿って城里町方面と茂木方面へ至る街道が通っています。字岩戸には、日立などの沿岸地域の海産物を下野方面に運ぶ「塩の道」の名残りを伝える石造馬頭観音像があり（当初は境松峠、現在地に移動）、東西を結ぶ重要な街道だったことがわかります。

那珂川流域の南側となるこの地域は、江戸時代には上伊勢畑村、下伊勢畑村、松山村の3か村に分かれていました。この旧3か村はそのまま現在の大字となっています。

3か村は、大区小区制ではすべて第5大区1小区（明治8年）に含まれ、大区小区制廃止後の連合村制度の下では下伊勢畑村外二か村連合に（明治11年）、改正後は下阿野沢村外九か村連合に（明治17年）組み入れられました。改正後の九か村連合では、阿波山村や赤沢村など那珂川右岸、現在の城里町地域の村々と連合していたことがわかります。

その後、明治22年（1889）4月に施行された市制・町村制で上伊勢畑・下伊勢畑・松山の3か村が合併し伊勢畑村となり、初代村長には蓮田竹彦が就任しました。



▲旧伊勢畑支所（『広報ごぜんやま』）

役場は下伊勢畑^{かばた}字川畑1889-1、1892-2番地に置かれました。昭和30年の合併後も伊勢畑支所としてしばらく使用されました。



▲伊勢畑村役場跡の現況

◇昭和の合併

昭和28年（1953）9月には、町村合併促進法が公布され、人口8000人を適正規模の目安とする村の具体像が示されるとともに、県からは合併案が提示されました。

これにより、伊勢畑村は、東に隣接する野口村と合併協議を重ね、昭和29年6月に合併促進協議会が設けられました。8月以降集落（部落）ごとに懇談会が行われ、集落としての意見がとりまとめられました。住民の議論の的となったのは、東茨城郡への所属、学校、本庁位置、渡船場など生活に直結するものでした。伊勢畑村民は、役場を伊勢畑に設置することなど、従前どおりの行政運営を訴えましたが、協議会は紛糾することなく結論に至ったようです。翌年2月には2か村が合併し、御前山村が発足しました。最終的に、東茨城郡に属することになり、役場位置は野口となりました（現在の野口地区センターの位置）。

この後、昭和31年9月に長倉村が合併し、新たな御前山村が誕生しました（『文書館だより』vol.27,28をご参照ください）。



▲伊勢畑村役場文書

青木猛さん、蓮田信夫さんに聞き取り調査にご協力をいただきました。

【参考文献】塙泉嶺『那珂郡郷土史』宗教新聞社 大正12年、茨城県総務部地方課編『茨城県市町村合併史』昭和33年、『御前山村郷土誌』平成2年、『広報ごぜんやま 復刻版1』御前山村 平成11年

■問い合わせ■ 文書館 ☎52-0571